

## 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題の現状について(概要)

### 1 要 旨

文部科学省が全国における標記調査の結果を取りまとめたところであり、当該結果における山口県の状況について公表する。

### 2 調査対象

国公立の小・中・高等学校、中等教育学校、特別支援学校

### 3 山口県における生徒指導上の諸課題の現状(国公立計) ※( )内は前年度との比較

	山 口 県		全 国	
	発生件数 (小・中・高・中等)	発生率	発生件数 (小・中・高・中等)	発生率
暴力行為の発生件数 (小・中・高・中等)	752件 (+10)	5.5件 (+0.1)	66,201件 (-12,586)	5.1件 (-1.0)
いじめの認知件数 (小・中・高・中等・特)	3,801件 (-605)	27.7件 (-3.9)	517,163件 (-95,333)	39.7件 (-6.8)
不登校児童生徒数 (小・中・高・中等)	小学校 611人 (+111)	出現率 9.2人 (+1.8)	63,350人 (+10,000)	出現率 10.0人 (+1.7)
	中・中等前期課程 1,455人 (+133)	42.8人 (+4.2)	132,777人 (+4,855)	40.9人 (+1.5)
	高・中等後期課程 267人 (-43)	8.3人 (-1.1)	43,051人 (-7,049)	13.9人 (-1.9)
高等学校の中途退学者数 (高・中等後期課程)	347人 (-28)	中途退学率 1.0% (±0)	34,965人 (-7,917)	中途退学率 1.1% (-0.2)

※ 暴力行為発生率、いじめ認知率、不登校出現率については、児童生徒1,000人当たりの数

※<国立学校数> 小学校2校、中学校2校、特別支援学校1校

<公立学校数(分校含む)> 小学校279校、中学校144校(中等教育学校前期課程1校を含む)、  
高等学校60校(中等教育学校後期課程1校を含む)、特別支援学校13校

<私立学校数> 中学校8校、高等学校22校

## 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題の現状について

### (1) 暴力行為（国公立小・中・高等学校及び中等教育学校）

⇒ **資料1** (P.6)

区分	令和2年度		
	発生件数	発生率	
小	山口県	<b>375 (-2)</b>	<b>5.7 (+0.1)</b>
	全国	41,056 (-2,558)	6.5 (-0.3)
中	山口県	<b>341 (+46)</b>	<b>10.0 (+1.4)</b>
	全国	21,293 (-7,225)	6.6 (-2.2)
高	山口県	<b>36 (-34)</b>	<b>1.0 (-0.9)</b>
	全国	3,852 (-2,803)	1.2 (-0.8)
計	山口県	<b>752 (+10)</b>	<b>5.5 (+0.1)</b>
	全国	66,201 (-12,586)	5.1 (-1.0)

※ 発生率は、児童生徒1,000人当たりの発生件数（件）

※ （ ）内は前年度との比較

#### ○ 本県の状況

- ・ 暴力行為の発生件数は、752件（小学校375件、中学校341件、高等学校36件）であり、前年度より10件増加した。暴力行為の発生率は5.5件であり、全国数値（5.1件）を上回っている。
- ・ 形態別では、「生徒間暴力」が530件（小学校248件、中学校252件、高等学校30件）で最も多く、「対教師暴力」142件、「器物損壊」75件、「対人暴力」5件と続く。

#### ○ 全国の状況

- ・ 暴力行為の発生件数は、66,201件（小学校41,056件、中学校21,293件、高等学校3,852件）であり、前年度より12,586件減少した。
- ・ 形態別では、「生徒間暴力」が47,416件（小学校30,548件、中学校14,459件、高等学校2,409件）で最も多く、「対教師暴力」8,620件、「器物損壊」9,055件、「対人暴力」1,110件と続く。

## (2) いじめ

⇒ **資料2** (P.6)

### ① 本県の国公立小・中・高・中等教育学校及び特別支援学校の状況

区分	令和2年度		
	認知件数	認知率	
小	山口県	2,720 (-186)	41.0 (-2.1)
	全国	420,897 (-63,648)	66.9 (-8.9)
中	山口県	919 (-288)	27.0 (-8.2)
	全国	80,877 (-25,647)	25.1 (-7.5)
高	山口県	149 (-103)	4.2 (-2.8)
	全国	13,126 (-5,226)	3.9 (-1.5)
特	山口県	13 (-28)	7.2 (-15.5)
	全国	2,263 (-812)	15.6 (-5.7)
計	山口県	3,801 (-605)	27.7 (-3.9)
	全国	517,163 (-95,333)	39.7 (-6.8)

※ 認知率は、児童生徒1,000人当たりの認知件数（件）

※ （ ）内は前年度との比較

#### ○ 本県の状況

- いじめの認知件数は、3,801件（小学校2,720件、中学校919件、高等学校149件、特別支援学校13件）であり、前年度より605件減少した。いじめの認知率は27.7件であり、全国数値（39.7件）を下回っている。

#### ○ 全国の状況

- いじめの認知件数は、517,163件（小学校420,897件、中学校80,877件、高等学校13,126件、特別支援学校2,263件）であり、前年度より95,333件減少した。
- いじめの態様について、全国的に「冷やかしやからかい、悪口脅し文句」が最も多く、次に小・中・特別支援学校では「軽くぶつかる、遊ぶふりをして叩く、蹴る」、高等学校では「パソコンや携帯電話で、誹謗・中傷や嫌なことをされる」が続いている。

### ② 本県のいじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する重大事態の状況

区分	令和2年度	
	重大事態の発生件数	発生率
山口県	8	0.06
全国	514	0.04

※ 発生率は、児童生徒1,000人当たりの「重大事態」の発生件数（件）

※ 令和2年度調査から県別を公表

#### ○ 本県の状況

- いじめの重大事態の発生件数は8件である。発生率は0.06件であり、全国数値（0.04件）を上回っている。

#### ○ 全国の状況

- いじめの重大事態の発生件数は514件である。前年度より209件減少した。

### (3) 不登校

⇒ **資料3** (P.7)

#### ① 本県の国公立小・中学校及び中等教育学校前期課程の状況

区分	令和2年度	
	不登校 児童生徒数	出現率
小	山口県	611 (+111)
	全国	63,350 (+10,000)
中	山口県	1,455 (+133)
	全国	132,777 (+4,855)
計	山口県	2,066 (+244)
	全国	196,127 (+14,855)

※ 出現率は、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数（人）

※ （ ）内は前年度との比較

#### ○ 本県の状況

- ・ 小・中学校及び中等教育学校前期課程において、年30日以上欠席した不登校児童生徒数は2,066人であり、前年度より244人増加した。不登校児童生徒の出現率は20.6人であり、全国数値（20.5人）を上回っている。
- ・ 校種別では、小学校611人で前年度より111人増加、中学校1,455人で133人増加した。不登校児童生徒の出現率は、小学校は9.2人で全国数値（10.0人）を下回っている。中学校は42.8人であり、全国数値（40.9人）を上回っている。

#### ○ 全国の状況

- ・ 不登校児童生徒数は196,127人であり、前年度より14,855人増加した。
- ・ 校種別では、小学校63,350人で前年度より10,000人増加、中学校132,777人で、4,855人増加した。
- ・ 小学校不登校の要因について、全国的に「無気力、不安」が多く、次に「親子の関わり方」、「生活リズムの乱れ・あそび・非行」が続いている。
- ・ 中学校不登校の要因について、全国的に「無気力、不安」が多く、次に「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、「生活リズムの乱れ・あそび・非行」が続いている。

#### ② 本県の高等学校及び中等教育学校後期課程の状況

区分	令和2年度	
	不登校 児童生徒数	出現率
高	山口県	267 (-43)
	全国	43,051 (-7,049)

※ 出現率は、生徒1,000人当たりの不登校生徒数（人）

※ （ ）内は前年度との比較

#### ○ 本県の状況

- ・ 高等学校及び中等教育学校後期課程において、年30日以上欠席した不登校児童生徒数は267人であり、前年度より43人減少した。不登校生徒の出現率は8.3人であり、全国数値（13.9人）を下回っている。

#### ○ 全国の状況

- ・ 不登校生徒数は43,051人であり、前年度より7,049人減少した。
- ・ 不登校の要因について、全国的に「無気力、不安」が多く、次に「生活リズムの乱れ・あそび・非行」、「入学、転編入学、進級時の不適応」が続いている。

(4) 中途退学（高等学校及び中等教育学校後期課程） ※（ ）内は前年度との比較（%） ⇒ **資料4**（P.8）

区 分		令和2年度	
		中途退学者数	中途退学率
高	山口県	347 (-28)	1.0 (±0)
	全国	34,965 (-7,917)	1.1 (-0.2)

- 本県の状況
  - ・ 高等学校及び中等教育学校後期課程の中途退学者数は347人であり、前年度より28人減少した。中途退学率は1.0%であり、全国数値（1.1%）を下回っている。
  - ・ 中途退学の理由は、「進路変更」が45.0%で最も多く、次に「学校生活・学業不適應」が28.2%となっている。
- 全国の状況
  - ・ 中途退学者数は34,965人であり、前年度より7,917人減少した。
  - ・ 中途退学の理由は、「進路変更」が43.1%で最も多く、次に「学校生活・学業不適應」が30.5%となっている。

(5) 生徒指導上の諸課題の解決に向けた公立学校における主な取組

**ア 心の教育の基盤となる開発的生徒指導の推進**

- ・ 児童生徒の夢や希望を育むキャリア教育・進路指導の充実
- ・ スクールカウンセラーによる心理教育プログラムの実施による子どもたちの心の育成
- ・ A F P Y等の体験活動を活用したコミュニケーション能力の向上等による望ましい人間関係づくりの推進
- ・ 特別活動を活用した、児童生徒の心のつながりを深める取組の創意工夫
- ・ 学習規律の徹底及びわかる授業づくりや個に応じたきめ細かな学習指導等の充実
- ・ 高等学校における、生徒の多様なニーズに対応した特色ある学校づくりの推進

**イ 問題行動や不登校等の未然防止に向けた組織的な取組の充実**

- ・ 各学校において、これまで以上に児童生徒に目を配り、子どもへの積極的な声かけや教育相談を行う等、児童生徒理解の充実
- ・ 家庭や地域、小中高の異校種間連携を強化した組織的対応の推進
- ・ 外部専門家や関係機関等との連携による、児童生徒理解に基づいた早期の支援及び継続性のある生徒指導・教育相談の推進
- ・ SNS等を活用した幅広い相談体制の充実及び1人1台タブレット端末等を活用した、オンラインによる相談カウンセリング体制の整備の推進
- ・ 個々の児童生徒の状況に応じた必要な支援や、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関との連携による教育相談体制の一層の充実・強化
- ・ 弁護士によるいじめ予防教室の実施や、生徒指導上の諸課題への適切な対応に資する相談体制の充実
- ・ 児童生徒の適切なインターネット利用へ向けた、情報モラル教育の充実及び保護者等への啓発の促進
- ・ 学校適応感調査「F i t」（小・中・高校生版）の積極的活用による児童生徒理解及び支援の促進
- ・ 「心をつなぐ1・2・3運動」等による、欠席者に関する早期の情報共有・組織的支援の一層の充実
- ・ 高等学校中途退学に至った場合の指導資料「新しい進路に向けて」を活用した学び直しや就労へ向けた支援

**ウ 学校・家庭・地域が連携した体制づくり**

- ・ 学校と保護者の緊密な連携による、組織的で適切・丁寧な指導・支援
- ・ 外部専門家や地域人材の参画を得た「学校いじめ対策委員会」を中核とする、学校組織体制の充実
- ・ コミュニティ・スクール、地域協育ネットの機能や家庭教育支援チーム等を活用し、学校・家庭・地域が一体となった、子どもたちの学びと育ちを見守り支援する体制づくりの推進
- ・ 教育支援センター（適応指導教室）等による、児童生徒の社会的自立に向けた支援
- ・ 警察、児童相談所等の関係機関や少年安全サポーター等専門家との緊密な連携による、課題を抱える児童生徒への立ち直り支援

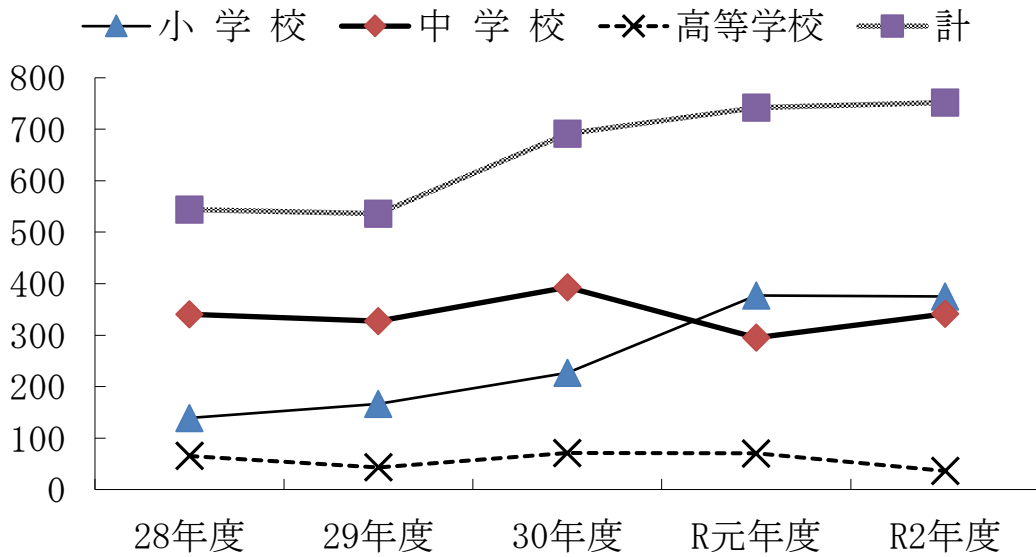
# 資料 1

## 暴力行為の状況 (R2 山口県：国公立)

(文部科学省：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から)

暴力行為の定義「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」

### <発生件数の推移>



区分	28年度	29年度	30年度	R元年度	R2年度
小学校	139	166	227	377	375
中学校	340	327	393	295	341
高等学校	65	43	71	70	36
計	544	536	691	742	752

### <暴力行為の内訳 (件数)> ※ ( ) 内は前年度との比較

	対教師	生徒間	対人	器物	計	発生率 (件)
小	96(+13)	248(+21)	1(±0)	30(▲36)	375(▲2)	5.7 (+0.1)
中	44(+6)	252(+58)	4(▲3)	41(▲15)	341(+46)	10.0 (+1.4)
高	2(▲1)	30(▲17)	0(▲7)	4(▲9)	36(▲34)	1.0 (▲0.9)
計	142(+18)	530(+62)	5(▲10)	75(▲60)	752(+10)	5.5 (+0.1)

### <全国との比較>

( ) 内は前年度との比較

区分	山口県		全国	
	発生件数	発生率(件)	発生件数	発生率(件)
国公立	752(+10)	5.5(+0.1)	66,201(▲12,586)	5.1(▲1.0)

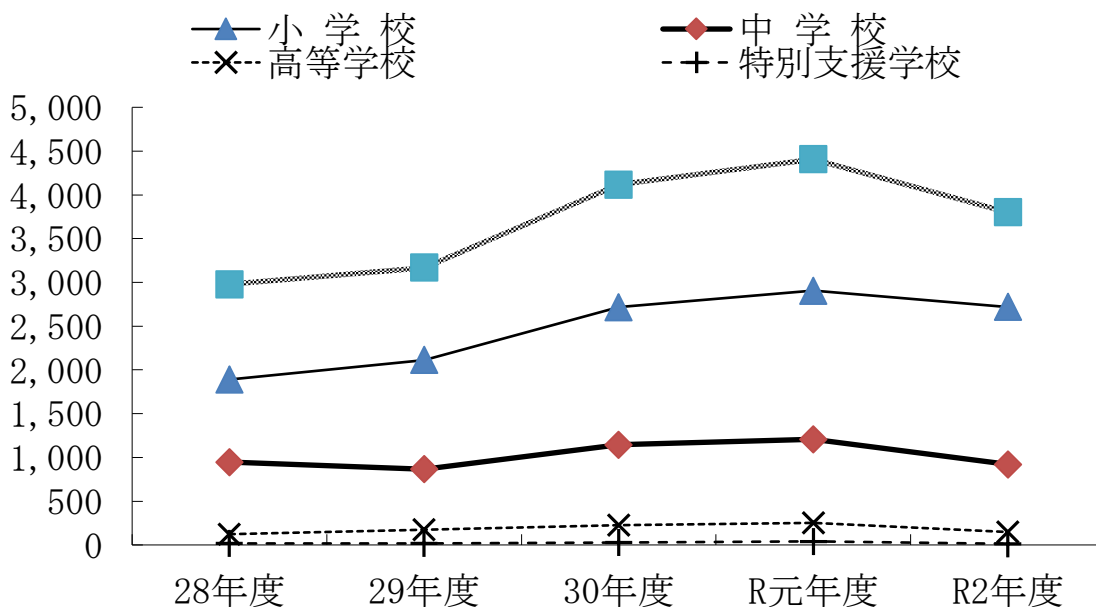
# 資料 2

## いじめの状況 (R2 山口県：国公立)

(文部科学省：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から)

いじめの定義「児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」

### <認知件数>



区分	28年度	29年度	30年度	R元年度	R2年度
小学校	1,890	2,113	2,716	2,906	2,720
中学校	947	865	1,144	1,207	919
高等学校	123	175	226	252	149
特別支援学校	19	16	30	41	13
計	2,979	3,169	4,116	4,406	3,801

### <全国との比較>

( ) 内は前年度との比較

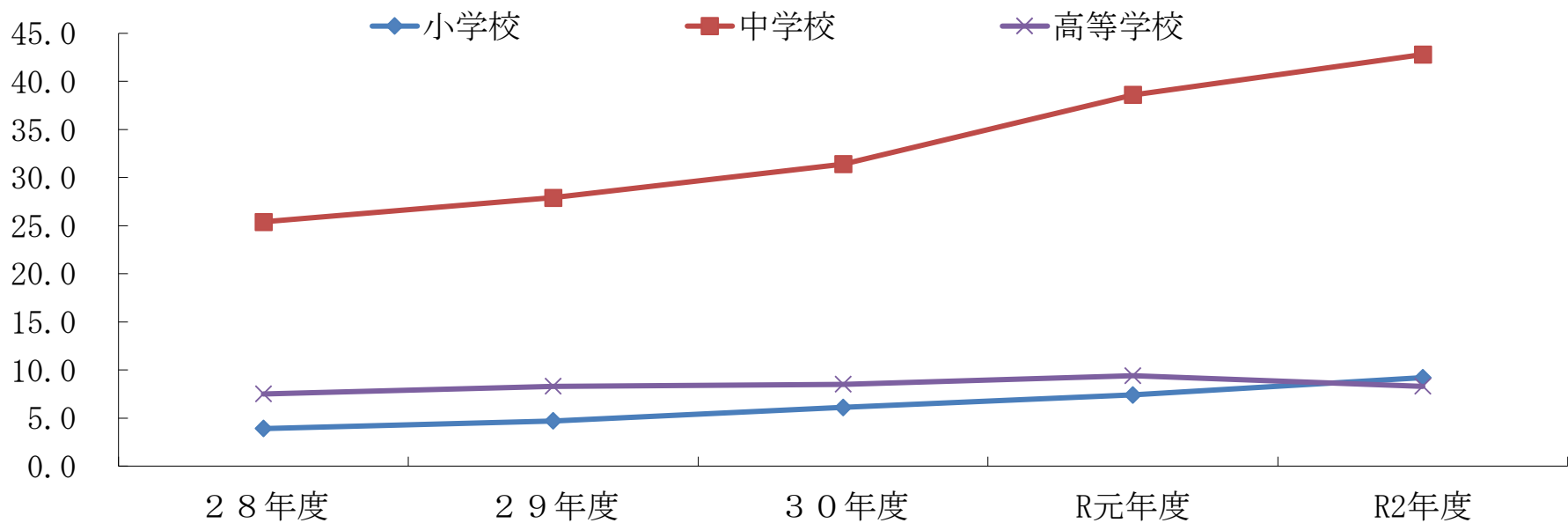
区分	山口県		全国	
	認知件数	認知率(件)	認知件数	認知率(件)
国公立	3,801(▲605)	27.7(▲3.9)	517,163(▲95,333)	39.7(▲6.8)

### 資料3 不登校の状況（R2 山口県：国公立）

（文部科学省：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から）

不登校の定義「年度間に30日以上欠席した児童生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、或いは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない或いはしたくともできない状況にあるもの（病気や経済的な理由によるものを除く）」

#### <不登校児童生徒出現率の推移（1,000人当たりの不登校児童生徒数）>



#### 不登校児童生徒数

	28年度	29年度	30年度	R元年度	R2年度
小学校	268	320	413	500	611
中学校	939	998	1,092	1,322	1,455
高等学校	262	287	287	310	267

#### 不登校児童生徒出現率

	28年度	29年度	30年度	R元年度	R2年度
小学校	3.9	4.7	6.1	7.4	9.2
中学校	25.4	27.9	31.4	38.6	42.8
高等学校	7.5	8.3	8.5	9.4	8.3

#### <全国との比較>

（ ）内は前年度との比較

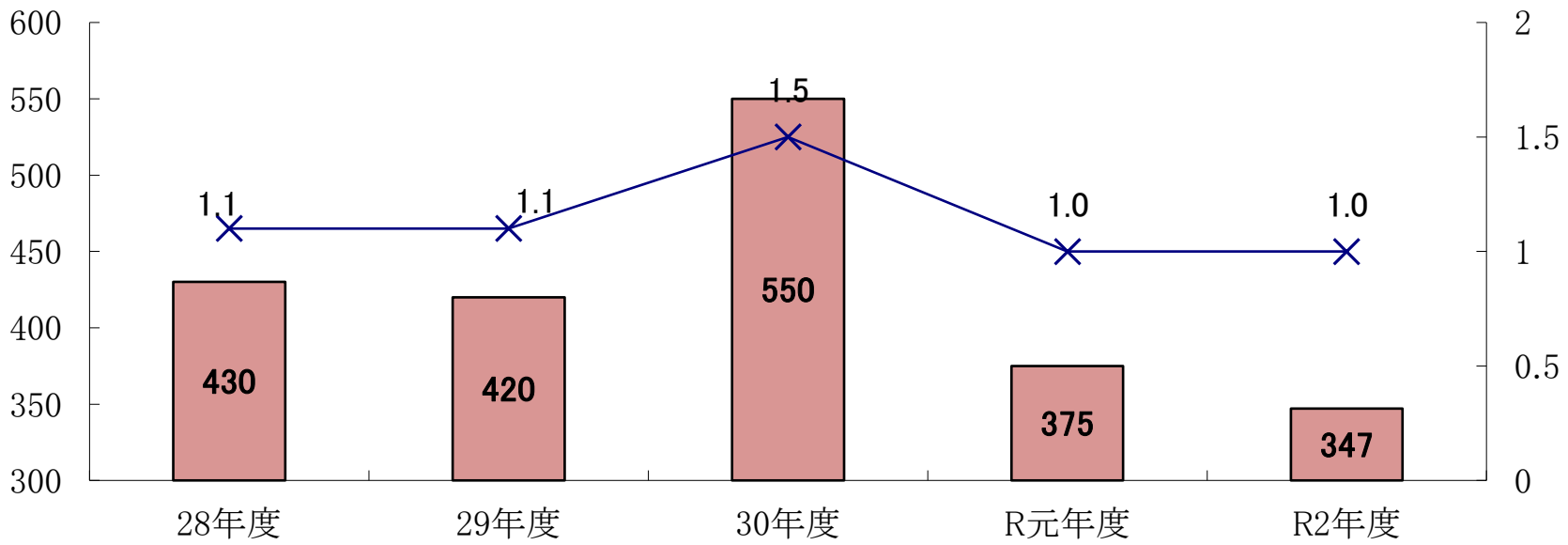
区分	山口県		全国	
	不登校児童生徒数	出現率(人)	不登校児童生徒数	出現率(人)
小学校	611(+111)	9.2(+1.8)	63,350(+10,000)	10.0(+1.7)
中学校	1,455(+133)	42.8(+4.2)	132,777(+4,855)	40.9(+1.5)
高等学校	267(▲43)	8.3(▲1.1)	43,051(▲7,049)	13.9(▲1.9)

**資料 4**

**中途退学の状況（R2 山口県：国公立高等学校）**

（文部科学省：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から）

＜中途退学者数及び中途退学率の推移＞

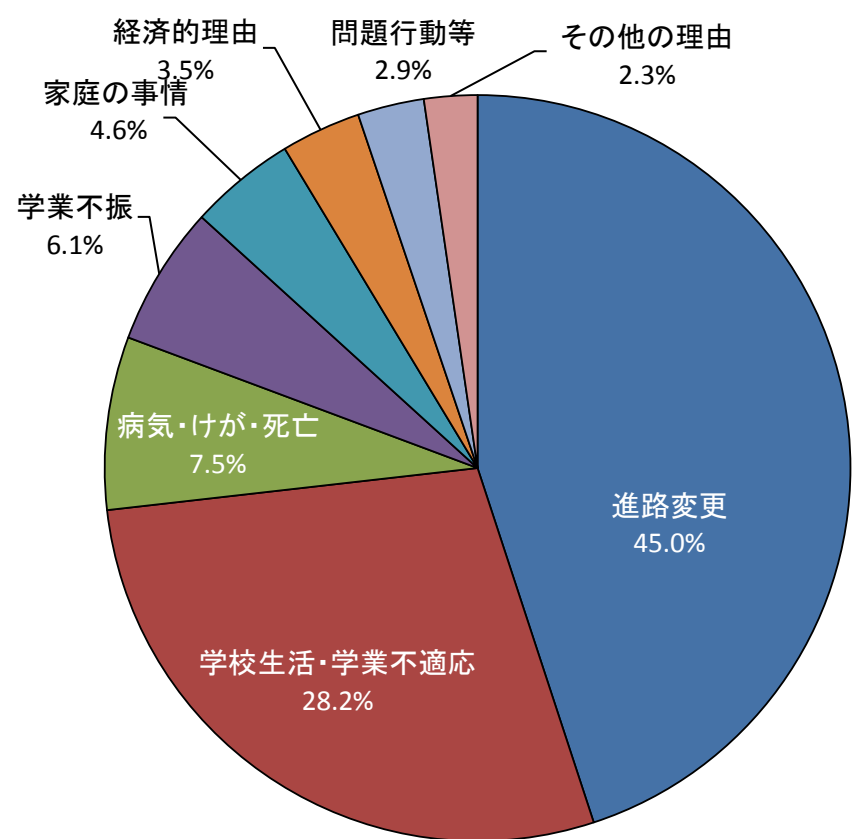


区分	項目	28年度	29年度	30年度	R元年度	R2年度
国公立	中途退学者数 (人)	430	420	550	375	347
	中途退学率 (%)	1.1	1.1	1.5	1.0	1.0

＜理由別中途退学者数＞

( ) 内は前年度との比較

理由	人数	率
進路変更	156 (▲11)	45.0%
学校生活・学業不適応	98 (▲13)	28.2%
病気・けが・死亡	26 (+9)	7.5%
学業不振	21 (+7)	6.1%
家庭の事情	16 (▲4)	4.6%
経済的理由	12 (+2)	3.5%
問題行動等	10 (▲8)	2.9%
その他の理由	8 (▲10)	2.3%
計	347 (▲28)	-



＜全国との比較＞

( ) 内は前年度との比較

区分	山 口 県		全 国	
	中途退学者	中途退学率 (%)	中途退学者数	中途退学率 (%)
国公立	347 (▲28)	1.0 (±0)	34,965 (▲7,917)	1.1 (▲0.2)